



## 2026年3月期 第3四半期決算短信〔IFRS〕(連結)

2026年2月9日

上場会社名 信和株式会社

上場取引所 東・名

コード番号 3447

URL <https://www.shinwa-jp.com>

代表者 (役職名) 代表取締役

(氏名) 則武 栗夫

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 執行役員 管理本部長 (氏名) 平澤 光良 (TEL) 0584-66-4436

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2026年3月期第3四半期の連結業績 (2025年4月1日～2025年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		四半期利益		親会社の所有者に 帰属する四半期利益		四半期包括利益 合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	15,397	19.9	2,348	65.6	2,214	67.0	1,673	93.2	1,676	93.3	1,742	103.5
2025年3月期第3四半期	12,840	32.7	1,418	104.3	1,325	101.9	865	96.2	867	97.5	856	92.6

	基本的1株当たり 四半期利益	希薄化後1株当たり 四半期利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	123.02	—
2025年3月期第3四半期	62.44	—

#### (2) 連結財政状態

	資産合計		資本合計		親会社の所有者に 帰属する持分		親会社所有者 帰属持分比率	
	百万円		百万円		百万円		%	
2026年3月期第3四半期	31,626		16,861		16,861		53.3	
2025年3月期	29,967		15,846		15,841		52.9	

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年3月期	円 銭 —	円 銭 16.00	円 銭 —	円 銭 16.00	円 銭 32.00
2026年3月期	—	16.00	—	—	—
2026年3月期(予想)				18.00	34.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2026年3月期の連結業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		当期利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		基本的1株当たり 当期利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	20,000	14.3	2,000	23.3	1,820	21.5	1,246	28.1	1,246	27.8	91.20	

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有  
新規 1社 (社名) 海津建設株式会社 、除外 一社 (社名)

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① I F R Sにより要求される会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)  
② 期末自己株式数  
③ 期中平均株式数(四半期累計)

2026年3月期3Q	14,103,000株	2025年3月期	14,103,000株
2026年3月期3Q	543,303株	2025年3月期	180,434株
2026年3月期3Q	13,627,876株	2025年3月期3Q	13,888,454株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 無  
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。なお、業績予想の前提となる事項等につきましては、添付資料P.4「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照下さい。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 要約四半期連結財政状態計算書 .....	5
(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書 .....	7
要約四半期連結損益計算書 .....	7
第3四半期連結累計期間 .....	7
要約四半期連結包括利益計算書 .....	8
第3四半期連結累計期間 .....	8
(3) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(重要な後発事象) .....	9
(セグメント情報等の注記) .....	9
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、緩やかな回復基調が続くものの、個人消費や住宅市場など内需の一部には弱さが見られ、物価上昇の影響や国際情勢の緊迫化といった不確実性を抱える状況にあります。特に住宅市場においては、建設資材価格の高止まりや人手不足、金利上昇への警戒感などを背景に、新設住宅着工の抑制傾向が続いております。一方で、財政・金融政策を背景とした設備投資や生産活動には底堅さが認められております。

こうした中、建設需要全体では堅調に推移しており、国土交通省が公表した建設総合統計によれば、2025年10月の建設工事出来高総計は約5兆2,520億円と、前年同月比1.6%増となりました。また、資材単価の上昇や国内インフラの老朽化対応、都市再開発プロジェクトの進展を背景に、2025年度の建設投資額は前年度比で増加する見通しが示されており、建築投資・土木投資ともに底堅い動きが続いております。

このような事業環境のもと、当社グループでは、仮設資材部門において主力製品であるくさび緊結式足場の「所有」から「利用」への需要のシフトを的確に捉え、顧客のニーズに応じて、販売とレンタルの両面から柔軟な提案を強化いたしました。また、2024年4月に子会社化したヤグミグループは、仮設施工工事により当社の事業基盤を補完し、グループ全体としての対応力や提供価値の向上に寄与しております。物流機器部門では、既存製品の性能向上とラインナップの拡充に加え、多様化する市場ニーズに対応した新製品の開発に注力し、課題解決に貢献しております。また、2025年5月に子会社化した株式会社鳳金属工業、同10月に子会社化した海津建設株式会社については、グループシナジー創出に向けた事業体制の再整備や業務プロセスの統合を進めております。なお同社の子会社化に伴い、取得時の純資産が取得対価を上回ったことから、当第3四半期連結会計期間において負のれん504百万円を「その他の収益」に計上しております。一方で、2025年12月3日付及び同月25日付で開示した当社子会社における資金流出事案による損失として、250百万円を「その他の費用」に計上しております。

製造原価の圧縮に向けた取り組みとしては、内外製区分の最適化、原材料価格の高止まりに対応するため、仕入先の見直し、物流の最適化、生産効率の向上など、多角的な施策を講じることで、安定的な供給体制の維持とともにコスト競争力の強化を図ってまいりました。

これらの取り組みが奏功し、当第3四半期連結累計期間における売上収益は15,397百万円(前年同期比19.9%増)、営業利益は2,348百万円(前年同期比65.6%増)、税引前四半期利益は2,214百万円(前年同期比67.0%増)、親会社の所有者に帰属する四半期利益は1,676百万円(前年同期比93.3%増)となりました。

当社の事業活動の根底には、「いのちを守り、未来を支える」というパーソナリティがあります。

建設現場で働く方々の安全確保を最優先課題とし、製品の軽量化を通じて現場の負担軽減と安全性・生産性の向上の両立を追求しています。さらに、橋梁などの特殊工事に対応する吊り足場の提供を開始するなど、より幅広い現場ニーズに応えております。社会インフラを支える建設業界の重要性が一層高まる中、当社は今後も市場ニーズと社会の要請に真摯に応え、お客様と共に課題解決に取り組むことで、持続可能な未来の実現に貢献してまいります。

当社グループは仮設資材及び物流機器の製造・販売事業の単一セグメントであるため、セグメントごとの記載はしておりませんが、事業部門別の業績は次のとおりであります。

#### ① 仮設資材部門

仮設資材部門では、「製造から施工まで」を一貫して担う体制のもと、戸建住宅から高層建築物まで幅広く対応可能な「くさび緊結式足場」や「次世代足場」の製造・販売・レンタル及び仮設施工サービスの提供を行っております。

当第3四半期連結累計期間においても、仮設資材に対する需要は堅調に推移しました。原材料価格の高止まりや製品価格の上昇が継続するなか、販売よりもレンタルを選択する傾向は依然として強いものの、現場ニーズに応じた提案の強化により、販売についても好調に推移いたしました。

こうした環境下において、当部門では販売とレンタルの両面から柔軟な提案営業を展開するとともに、重点エリアでの営業活動を強化し、顧客ニーズに応じた最適なサービス提供に努めてまいりました。

また、グループ会社であるヤグミグループは、豊富な人材力を活かし、深刻化する人手不足のなかでも堅調な工事需要を確実に取り込み、着実に施工実績を積み上げています。

これらの取り組みに加え、2025年10月よりグループ会社となった海津建設株式会社の売上が寄与したこともあり、「くさび緊結式足場」「施工及びレンタル」は堅調に推移し、当第3四半期連結累計期間における仮設資材部門の売上収益は、11,110百万円(前年同期比9.1%増)となりました。

## ② 物流機器部門

物流機器部門では、大型物流倉庫、自動車など多様な産業向けに、オーダーメイド製品を通じて運搬・保管の効率化と安全性向上を実現するソリューションを提供しています。

当第3四半期連結累計期間においても、大型物流倉庫関連案件に加え、ガラス・土石製品、自動倉庫分野など、幅広い業界からの継続的な受注がありました。

なかでも大型物流倉庫案件が大きく寄与し、当部門の売上拡大を牽引したことにより、当第3四半期連結累計期間における物流機器部門の売上収益は、4,286百万円(前年同期比61.2%増)となりました。

(単位：千円)

製品及びサービスの名称	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
仮設資材	くさび緊結式足場	3,894,150
	次世代足場	1,002,392
	施工及びレンタル	3,740,949
	その他の販売	1,078,446
	その他	465,024
	(小計)	10,180,962
物流機器	パレット	2,659,137
	(小計)	2,659,137
合計		12,840,100
		15,397,691

(注) 「施工及びレンタル」、「パレット」及び「その他」には、IFRS第16号に基づくリースから生じる売上収益が前第3四半期連結累計期間は511,361千円、当第3四半期連結累計期間は603,620千円含まれております。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産)

当第3四半期連結会計期間末の流動資産は9,603百万円となり、前連結会計年度末に比べ273百万円減少しました。主な要因は、現金及び現金同等物が1,172百万円、営業債権及びその他の債権が232百万円減少した一方、棚卸資産が254百万円増加したためであります。また、非流動資産は22,022百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,931百万円増加しました。この主な要因は、有形固定資産が1,260百万円増加したためであります。この結果、資産合計は31,626百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,658百万円増加しました。

### (負債)

当第3四半期連結会計期間末の流動負債は7,000百万円となり、前連結会計年度末に比べ307百万円増加しました。主な要因は、営業債務及びその他の債務が214百万円増加したことによるものです。また、非流動負債は7,764百万円となり、前連結会計年度末に比べ336百万円増加しました。この結果、負債合計は14,764百万円となり、前連結会計年度末に比べ643百万円増加しました。

(資本)

当第3四半期連結会計期間末の資本合計は16,861百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,014百万円増加しました。配当金の支払439百万円や自己株式の取得299百万円があったものの、親会の所有者に帰属する四半期利益1,676百万円を計上したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、現在精査中であり、今後修正が必要と判断した場合には、判明次第、速やかに開示いたします。

## 2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

### (1) 要約四半期連結財政状態計算書

	(単位 : 千円)	
	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>資産</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び現金同等物	2,908,656	1,736,174
営業債権及びその他の債権	4,410,414	4,177,656
棚卸資産	2,439,383	2,693,460
その他の金融資産	21,000	827,620
その他の流動資産	97,520	169,057
<b>流動資産合計</b>	<hr/> 9,876,975	<hr/> 9,603,968
<b>非流動資産</b>		
有形固定資産	5,163,007	6,423,917
使用権資産	993,946	1,054,719
のれん	12,264,652	12,264,652
無形資産	1,438,909	1,415,734
その他の金融資産	199,623	715,677
繰延税金資産	12,405	114,354
その他の非流動資産	18,383	33,256
<b>非流動資産合計</b>	<hr/> 20,090,928	<hr/> 22,022,311
<b>資産合計</b>	<hr/> 29,967,904	<hr/> 31,626,279

(単位 : 千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>負債及び資本</b>		
<b>負債</b>		
<b>流動負債</b>		
営業債務及びその他の債務	1,603,024	1,817,131
借入金	4,589,755	4,375,115
未払法人所得税	127,790	334,539
その他の金融負債	123,950	174,636
その他の流動負債	248,781	298,926
<b>流動負債合計</b>	<u>6,693,303</u>	<u>7,000,349</u>
<b>非流動負債</b>		
社債	—	41,889
借入金	5,897,270	5,727,427
引当金	101,892	191,920
その他の金融負債	882,894	897,393
繰延税金負債	484,080	722,193
その他の非流動負債	61,650	183,506
<b>非流動負債合計</b>	<u>7,427,787</u>	<u>7,764,330</u>
<b>負債合計</b>	<u>14,121,090</u>	<u>14,764,680</u>
<b>資本</b>		
<b>資本金</b>	153,576	153,576
<b>資本剰余金</b>	6,930,092	6,929,957
<b>利益剰余金</b>	8,885,060	10,120,615
<b>自己株式</b>	△137,618	△412,127
<b>その他の資本の構成要素</b>	10,697	69,576
<b>親会社の所有者に帰属する持分合計</b>	<u>15,841,808</u>	<u>16,861,598</u>
<b>非支配持分</b>	5,005	—
<b>資本合計</b>	<u>15,846,814</u>	<u>16,861,598</u>
<b>負債及び資本合計</b>	<u>29,967,904</u>	<u>31,626,279</u>

(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書

要約四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上収益	12,840,100	15,397,691
売上原価	△9,379,337	△11,031,997
売上総利益	3,460,762	4,365,693
販売費及び一般管理費	△2,022,911	△2,331,721
その他の収益	18,946	570,917
その他の費用	△38,554	△256,392
営業利益	1,418,243	2,348,497
金融収益	6,711	18,278
金融費用	△99,032	△152,071
税引前四半期利益	1,325,922	2,214,704
法人所得税費用	△459,967	△541,469
四半期利益	865,955	1,673,235
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	867,128	1,676,462
非支配持分	△1,173	△3,226
四半期利益	865,955	1,673,235
1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益(円)	62.44	123.02

要約四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期利益	865,955	1,673,235
<b>その他の包括利益</b>		
純損益に振り替えられることのない項目：		
その他の包括利益を通じて公正価値で 測定する金融資産	△9,931	69,234
純損益に振り替えられることのない項目 合計	△9,931	69,234
純損益に振り替えられる可能性がある項目：		
在外営業活動体の外貨換算差額	573	375
純損益に振り替えられる可能性がある項目 合計	573	375
税引後その他の包括利益	△9,358	69,610
四半期包括利益合計	856,596	1,742,845
<b>四半期包括利益合計額の帰属</b>		
親会社の所有者	857,489	1,745,887
非支配持分	△892	△3,042
四半期包括利益合計	856,596	1,742,845

(3) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

当社グループは仮設資材及び物流機器の製造・販売を主な事業としており、報告セグメントは仮設資材及び物流機器の製造・販売事業単一セグメントとなっています。

製品及びサービスごとの外部顧客への売上収益は、次のとおりであります。

(単位：千円)

製品及びサービスの名称		前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
仮設資材	くさび緊結式足場	3,894,150	4,289,849
	次世代足場	1,002,392	982,162
	施工及びレンタル	3,740,949	4,256,423
	その他の販売	1,078,446	1,130,469
	その他	465,024	451,995
	(小計)	10,180,962	11,110,899
物流機器	パレット	2,659,137	4,286,791
	(小計)	2,659,137	4,286,791
合計		12,840,100	15,397,691

(注) 「施工及びレンタル」、「パレット」及び「その他」には、IFRS第16号に基づくリースから生じる売上収益が前第3四半期連結累計期間は511,361千円、当第3四半期連結累計期間は603,620千円含まれております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費及び償却費は、以下のとおりです。

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費及び償却費	389,380	648,840